いとすぎ祭

JAPANESE RED CROSS TOYOTA COLLEGE OF NURSING Vol.42

ITOSUGI

いとすぎの丘

- 大学行事
- RCT☆LINK
- 国際交流
- 研究のトビラを開く
- Information

タイ派遣プログラム

球技大会

日本赤十字豊田看護大学

大学行事

いとすぎ祭 ＆ オープンキャンパス

5月23日（金）、24日（土）の2日間にわたり大学祭『いとすぎ祭』が開催され、盛況のうちに幕を閉じました。今年のテーマは多くの人と繋がりたいという思いが込められた「Ribborn」。来場された皆様の笑顔と活気に満ち溢れた2日間となりました。

初日の23日（金）は、学生と教員が入り乱れて熱い汗を流す球技大会が行われ、フットサルとドッジボールでは、普段見ることのできない教員の意外な一面や、学生たちのチームワークが垣間見え、会場は大きな声援と拍手に包まれました。白熱した試合展開は、参加者、観客一体となって大いに盛り上がりました。

2日目の24日（土）は、コロナ禍から永らく自粛していた一般開放が再開し、地域の皆様にも多数ご来場いただき、多くの人で賑わいました。避難所体験や防災ゲームに加え、カンボジアでの活動報告（展示）やチャリティー販売を通した被災地支援、レモネードスタンドなど、学生たちの赤十字精神が溢れる1日となりました。

同日、「受験生のためのオープンキャンパス」も開催され、入試概要の説明や、英語・小論文の入試対策セミナーを実施しました。過去問題を使用しながらの入試対策セミナーでは、解き方や考え方のコツなどをお伝えしました。

いとすぎ祭・オープンキャンパスにご来場いただきました皆様、ご尽力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

来年のいとすぎ祭もどうぞご期待ください！

RCT☆LINK

学生生活について

4年　加知　遥翔

大学生活も4年目に入り、これまでの時間を振り返ると、本当に多くの経験を積み重ねてきたと感じます。

大学生活では、勉強だけでなく、アルバイトやサークル活動にも取り組みました。限られた時間の中で予定を調整し、課題や試験勉強と両立させることは簡単ではありませんでしたが、この経験は自分の大きな自信になりました。サークルやバイト先で出会った人たちとの交流は、人との関わりの奥深さや多様な価値観を知るきっかけにもなりました。

看護学実習では、患者さんや利用者さん一人ひとりの背景を理解し、その人らしい生活を支える看護の重要性を強く実感しました。退院後や地域での生活まで見据えて考える視点が求められ、看護の視野が広がったように思います。現在は保健師実習の真っ最中です。地域の健康づくりや支援の現場での学びは、病院とは違った新鮮な発見ばかりで、毎日が刺激的です。

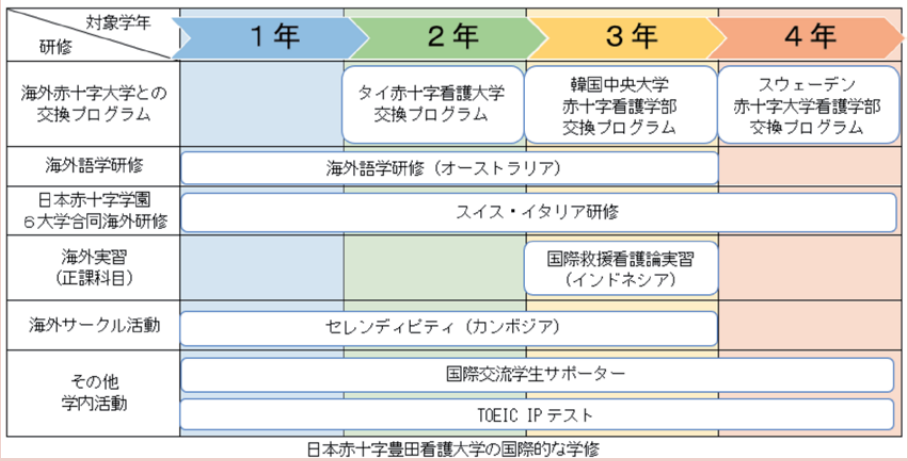
これまでの授業や実習、国家試験に向けた勉強に取り組む日々の中で、仲間と過ごす時間はかけがえのないものでした。お互いに励まし合い、時には悩みや不安を共有しながら支え合い、一緒に笑い合った時間は、この先もずっと心に残る大切な思い出です。仲間と過ごせる時間も残り少なくなってきた今、共に学び合い支え合えるこの貴重な時間を大切にしながら、勉強もプライベートも全力で楽しみ、学生生活最後の一年を悔いなく過ごしたいと思います。

⇒次回RCT☆LINKは
3年　松田直久さんです

国際交流

本学では、グローバルな視野を持ち、赤十字の基本原則「人道」の精神を体現できる看護師育成のために多くの国際教育の機会を設けています。国際交流協定のもと、タイ、韓国、スウェーデンの赤十字看護大学と相互に学生を派遣する「交換プログラム」、英語力を磨き海外の看護にも触れる「海外語学研修」、赤十字の原点をたどり人道と平和について考える「スイス・イタリア研修」などです。また、正課科目「国際救援看護論実習」ではインドネシアで文化や習慣に根差した保健活動を学び、学生サークル「セレンディピティ」はカンボジアの小学校で保健指導を行っています。一方、学内でも「国際交流学生サポーター」を組織し、海外から迎えた学生や教職員の案内・支援やイベント企画を行い、交流を通じて国際的な感覚を身につけています。今後も国際的な学びの機会を充実させ、豊かな国際感覚を備えた看護師の育成に努めていきます。

（国際交流委員会）



日本赤十字豊田看護大学の国際的な学修

タイ派遣プログラムに参加して

2年　石井　愛美

私たち2年生6名は、タイ赤十字看護大学での2週間の派遣プログラムに参加しました。講義や医療施設を見学して学びを深め、現地学生と友情の絆を結びました。初対面の私たちに笑顔で声をかけてくれ、拙い英語にも熱心に耳を傾けてくれた優しさと自由さが印象深く、その温かさに何度も助けられました。また、自分らしさを大切にしながらも互いを尊重し合う姿勢に、タイならではの文化的背景を感じ、価値観が広がりました。この経験を支えてくださった先生方、現地の方々に心から感謝をし、さらに視野を広げて将来に活かしていきます。

国際交流学生サポーターの活動

1年　松井　雫

私はサポーターとしてタイの留学生のためのお別れ会を企画し、素敵な思い出作りに努めました。

「サポーター」と言いますが、支えるというより支え合いの活動でした。準備が計画通りに進まず焦りました。そんな時助けてくれたのが留学生や仲間でした。英語が出てこなくて悔しい思いもしましたが、めげずに交流を続けるうちに言葉が出てくるようになって、成長を実感しました。言語をもっと勉強しようとモチベーションが高まりました。留学生に「英語が上達したね」と言われたり、信頼してもらえたことが大きな励みになりました。今もSNSを通じて友情が続いていることを嬉しく思います。またいつかどこがでみんなに会いたいと願っています。

研究のトビラを開く

看護の基礎を支える最先端の研究に取り組んでいます

基礎看護学領域では、Evidence-Based Practice（科学的根拠に基づく看護実践）の観点から、看護教育の質向上に向けた研究を展開しています。

ICTを活用した看護過程学習支援システム

看護実践の核となる「看護過程」修得を支援するデジタル学習システムを他大学と連携し開発研究・運用を行っています。患者さんの情報から必要な看護を導き出す批判的思考力を鍛えるうえで記録は欠かせません。従来のハンドライティングからデジタルな記録システムに移行することで、身体的な負担を軽減しつつ効率的かつ効果的に学習が進められるかを実証的に検証しています。

臨地実習指導者の役割遂行促進プログラム

臨地実習における指導者の教育的役割を客観的に評価する指標開発に取り組んでいます。実習指導者の役割遂行促進と育成プログラム開発により、質の高い実習教育の実現に貢献したいと考えています。

ポータブル超音波診断装置（エコー）を活用した看護技術教育

いま、看護におけるポータブルエコーの活用が非常に注目されています。本学では、いち早くポータブルエコーを教育ツールとして活用し、採血技術や残尿測定などの看護技術習得を目指しています。エコーによる解剖学的な人体の構造の可視化が技術習得に与える影響についても研究しながら、新たな看護技術の教育方法の確立を目指しています。

これらの研究成果を通じて、看護教育の質的向上と安全で確実な看護実践能力の育成に貢献しています。

Information

Event（11月～3月）

11月	29日（土） 推薦選抜　試験日
12月	27日（土） 冬期休暇〔～1月4日（日）〕
1月	31日（土） 大学独自選抜特待生プラス　試験日
2月	13日（金） 保健師国家試験　試験日 14日（土） 第2回大学院入学試験　試験日 15日（日） 看護師国家試験　試験日
3月	3日（火） 大学入学共通テスト利用選抜（後期）試験日 11日（水） 学位記授与式

公開講座および専門職向け研修会情報

■ 公開講座

日　時	講　師	テーマ	開催方式
3月7日（土） 14：00～15：30	小児看護学領域 岡田　摩理教授	祖父母向け子育て支援講座	対面

SNSにて情報発信中

入試情報やイベント情報などを発信しています。ぜひフォローをお願いします！

LINE公式アカウント

Instagram
JRC_TOYOTACOLLEGE

X

愛知県内赤十字施設
共同Instagram
NISSEKI_AICHI

Vol.42
いとすぎの丘
発行日／2025年11月
編集・発行／日本赤十字豊田看護大学
入試・広報委員会、入試・企画広報課
〒471-8565　豊田市白山町七曲12-33
TEL 0565-36-5111（代表）
FAX 0565-37-8558
E-Mail　kikaku-ka@rctoyota.ac.jp
HP　https://www.rctoyota.ac.jp/